

1本のブナから作る木工品の種類と木取り

(鳥取大学) ○作野友康、(鳥取木工芸振興会) 藪田道男、(元鳥取大学FSセンター) 松原研一
(鳥取県地球温暖化防止活動推進センター) 石黒仁士

【はじめに】

貴重材となってきた今日、ブナ材の表面性状と材質特性を活かしてより利用価値を高めるために、1本のブナの中径木からできるだけ多数の木工品を作製する方法と有効な木取りについて検討した。ブナの伐採から製材、乾燥、木取り、作品製作を一環して行い、樹幹の根元から枝先までを有効に利用する作品作りを目指して結成した、鳥取木工芸振興会会員を中心とする「ブナ1本プロジェクトチーム」が行った成果を報告する。

なお、作製した木工品についての付加価値についても検討した。

【1本のブナ】

鳥取大学フィールドサイエンスセンター教育・研究林 三朝の森で選択したブナ1本を伐採した。伐採したブナは樹齢約70年、樹高12mで切り株直径40cmの中径木であった。ブナは枝部を切り落として、樹幹部を玉切り後4分割に製材した。各部材は木工品製作者がそれぞれ分割し、製作する木工品向けに小割りして天然乾燥した。乾燥は割れができるだけ入らないように十分な配慮をして行った。

伐採



(枝部)



皮むき



乾燥



木工品製作用部材

製材・小割り

(樹幹部)

乾燥



【木取りと木工品製作】

樹幹部から枝先まで木工品が最も有効に多数、しかも出来る限り廃材を出さないように歩留まり良く採取できるようにすることを目標にして、慎重に検討して木取りした。

木工品の製作は樹幹部と枝部を用いて、各製作者がそれぞれの得意分野のものを自由に行った。従って、作品の種類と数量はそれぞれの裁量によることとし、各作品の名称は製作者が命名したため製作者の異なった同一名称のものが製作された。

作品の種類は大小合わせて43種類と多く、バラエティに富んでおり、その総数は1,250個に達した。



【評価および考察】

作製した木工品を見ると、樹幹部からはスツールのような家具、振り子時計、一輪挿しなどのような実用装飾品、鯉のぼり、おひな様セットのような玩具類などやや大型のものを、幅広の板が木取りできることから作製したが個数は少なかった。一方、幅広板を採材した端部の残材を利用して細長の孫の手、コースター、ペーパーナイフ、靴べらのような小物を数多く作製した。枝部からはできるだけ部材の特徴を活かした肩たたき、木槌などを、枝先の部分からはつぼ押し、指ごま、コースターなどの小物を多数作ることができた。

中径のブナ1本からこれだけ多種類の木工品を多数製作できたことは大いに評価すべきプロジェクトの成果であると思われる。また、ブナの持つ素材の木肌や木目の美しさは非常に魅力的で、各作品に活かされていて木工品としての商品的付加価値を高めているものと評価される。